Introduction

The British Broadcasting Corporation (BBC) is internationally famous for the quality and impartiality of its news items. BBC reporters also strive to make the news both interesting and as easy to understand as possible.

We have chosen 15 items that we think would be of particular interest, and therefore motivating. They are all about Britain and British events, so learners will gain an understanding of the life and culture of that country. Previous issues of this series have focused on London and the Home Counties, but this issue is very much a northern affair. We hear and watch the news from such places as the Wirral, Cheshire, Manchester, Carlisle, on the Scottish border, and we even visit a farmer in Fife, Scotland. Some of the local accents we hear are very strong, but not too difficult to understand.

The book covers such topics as education, the environment, health, transport, and a number of social and political issues. We consider the protection of refugees, the speed of e-bikes, and the collapse of the coast in eastern England. We see Prince William opening a hospital in Leeds to fulfil a promise made to a rugby player. Some aspects are also important in Japan, so there is the opportunity to discuss and compare the two countries. In fact, many topics are of international importance, as the world deals with multiple challenges.

As ever, new items of vocabulary are explained, and the notes (in Japanese) will explain any interesting points of grammar and usage of English. However, the most important purpose of this book is that the learners should be able to engage in the subject matter, research, and then discuss together. With this in mind, we have developed discussion questions that would encourage them to relate these new discoveries with what is already familiar to them.

The videos are easily accessible online. This will make it easy for students to study by themselves out of class.

We hope you enjoy the book and the videos.

はじめに

本書は、実際に放送された BBC（英国放送協会）のニュースを教材として、ニュースキャスターや街頭インタビューを受ける native speaker が自然に話す英語に触れることで、学習者のリスニング力や語彙力といった英語力を伸ばすことを目的としています。同時に、イギリスや世界で起こっている出来事やその背景となる社会や文化についても学べるように工夫されています。

扱うトピックは、政治、環境、教育から、医療、科学技術、移民問題まで多岐にわたるものとし、できるだけ up to date でありつつも普遍的なものを選びました。学習する皆様の興味関心の幅を広げ、ご希望にお応えすることができれば幸いです。

前作に引き続き、ユニット内のコラムはイギリス文化についての興味深い情報を増やして充実を図り、Questions も最初の Setting the Scene に始まり Follow Up にいたるまで、各ユニットで取り上げるニュースを順序良く掘り下げて理解が深まるように配慮しました。

本書を通じて、伝統と革新が共存する多民族国家イギリスが、4 つの地域の独自性を保ちつつ、総体としてのイギリスらしさ（“Britishness”）を模索する今の姿を見ていただけると思います。現在のイギリスは、国民投票で EU 離脱が決定してから 10 年が経過し、高騰し続ける物価や高い失業率などの問題を抱えながら国民にとってより良い道を模索しています。イギリスが日本や世界に与える影響を考慮すると、今後もその動きから目が離せません。

このテキストを使って学習する皆様が、イギリスや世界の状勢に興味を持ち、さらには自分から英語ニュースに触れたり英語で意見を述べたりと、ますます学習の場が広がっていきますことを、執筆者一同願っております。

テキストの特徴

普段の生活の中で、ニュースの英語に触れる機会はあまりないかもしれません。本テキストは、初めて英語でニュースを観る場合でも無理なく取り組めるよう、多種多様なアクティビティを用意しています。単語のチェックや内容確認、穴埋め、要約、ディスカッションを通して、段階を踏みながらニュースを理解できるような作りになっているので、達成感を感じることができるでしょう。

STARTING OFF

Setting the Scene

実際にニュースを観る前に、ニュースで扱われるトピックについて考えるためのセクションです。トピックについての学習を始めるにあたり、身近な問題としてトピックを捉えられるような問題を用意しました。ここで先にニュースに関する情報を整理しておけば、実際にニュースを観る際に理解が容易になります。ニュースで使われている単語や語句、または重要な概念をここで予習しておきましょう。

Building Language

ニュースの中で使われる重要単語を学びます。単に日本語の訳語を覚えるのではなく、英語での定義を通して、また同義語を覚えながら、単語の持つ意味を英語で理解することを目指します。また、これらの単語はディスカッションを行うときにもおそらく頻繁に使うことになる単語ですし、ニュースの核となる単語ですので、発音もしっかりと確認することが重要です。

WATCHING THE NEWS

Understanding Check 1

実際にニュースの中身を詳しく見ていく前に、どんな意見が交わされているのかを確認します。ここで具体的にニュースのイメージをつかむことが大事です。全体像を簡単にでも把握することで、ニュース理解の大きな助けとなります。

Understanding Check 2

ニュースに関する問題を解くことで、どれだけニュースを理解できたか確認することができます。間違えた箇所に関しては、なぜ間違えたのかをしっかりと分析し、内容を正確に把握しましょう。**Filling Gaps** のアクティビティを行ってから **Understanding Check 2** に取り組むのも効果的かもしれません。

Filling Gaps

ニュースの中で重要な意味を持つ単語を聞き取ります。何度も繰り返し聞き、正しい発音を意識します。それと同時に、単語を正しく書き取ることで、耳と手との両方の動きを通して重要単語を習得することを目指します。もし時間に余裕があれば、穴埋めの単語を実際に発音し、耳と手に加え口も使って覚えると効果的です。

MOVING ON

Making a Summary

この箇所は、これまで観てきたニュースをまとめる部分でもあり、かつ **Follow Up** に至る前の準備の段階でもあります。しっかりと内容を理解しているか、このアクティビティを通して確認しましょう。また、**Building Language** で出てきた単語を再度使っているため、単語の習熟の確認ができるようになっています。

Follow Up

ニュースと関連したトピックをいくつか挙げてあります。ニュースで得た知識、また単語を活かして話し合いを行うためのセクションです。トピックには、その場で話し合えるものと各自調べてから発表し合うもの、両方が含まれています。そのニュースに関してだけでなく、今後似たような話題に接したときにも意見を述べることができるよう、このアクティビティで仕上げを行います。

Background Information

ニュースでは、必ずしもすべての事柄が説明されているとは限りません。ニュースの核となる事柄で、かつニュースの中ではあまり詳しく説明されていないことに関して、このセクションでは補足しています。ニュースをより深く理解するのにも役立ちますし、**Follow Up** での話し合いの際にも使えるかもしれません。

Behind the Scenes

ニュースに関連することではありますが、**Background Information** とは異なりここではニュースの核となることではなく、話題が広がる知識、教養が深まる知識を取り上げました。肩の力を抜き、楽しんで読めるような内容になっています。

・各ユニットで取り上げたニュース映像はオンラインで視聴することができます。詳しくは巻末を参照ください。
・テキスト準拠の Audio CD には、各ユニットの Building Language、ニュース音声、ニュースを学習用に聞き取りやすく吹き替えた音声、Making a Summary を収録しています。





Contents

Unit 1 You're Never Alone in a Chatty Cafe ····· 1
おしゃべりカフェで孤独を救え！ [2分35秒]

Unit 2 Illegal E-bikes ····· 7
違法電動自転車を見つけ出せ！ [2分16秒]

Unit 3 Are Tattoos OK at Work? ····· 13
職場でタトゥー？ [2分35秒]

Unit 4 The Importance of Singing at School ····· 19
学校でもっと歌おう [3分40秒]

Unit 5 Using Drones to Speed Up the Health Service ····· 25
ドローンを使って円滑な医療を [2分27秒]

Unit 6 High Prices for Christmas ····· 31
クリスマスを襲う食品値上げ [3分02秒]

Unit 7 Eroding Coastline Puts Houses in Danger! ····· 37
海岸の浸食がもたらす悲劇 [3分53秒]









Unit 8 **Prince William Keeps His Word** ····· 43
病と闘ったスポーツ選手が遺したもの ［3分15秒］

Unit 9 **Review of the School Curriculum** ····· 49
今の時代に合った教育改革を ［2分24秒］

Unit 10 **Improving Inclusivity in the Workplace** ····· 55
インクルーシブな職場づくりを目指して ［2分49秒］

Unit 11 **New Effective Drug for Advanced Cancer** ····· 61
乳がん治療の新たな希望 ［2分30秒］

Unit 12 **How to Attract Tourists to Bedfordshire** ····· 67
地方観光の活性化を目指して ［3分09秒］

Unit 13 **Bringing Oysters Home to the Humber** ····· 73
カキの養殖で生態系を再生 ［2分09秒］

Unit 14 **Should We Welcome Refugees?** ····· 79
移民に対する市民の選択 ［2分31秒］

Unit 15 **The Rise of Solar Power** ····· 85
太陽光発電で電気代高騰を乗り切ろう！ ［2分46秒］





Map of The United Kingdom

正式名称は **The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland**（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）。**England**（イングランド）、**Wales**（ウェールズ）、**Scotland**（スコットランド）、**Northern Ireland**（北アイルランド）の４国から成る連合国家です（2026 年現在）。

※（　）は本テキストでその地名、場所が登場するユニットを表します



Unit 1

You're Never Alone in a Chatty Cafe



現代イギリス社会では孤独が深刻化しています。そうした中、とあるカフェで知らない人同士がおしゃべりをする企画が行われています。一体どのような取り組みなのでしょうか。ニュースを見てみましょう。

On Air Date 02 January 2026

STARTING OFF

Setting the Scene

What do you think?

1. Do you often go to a cafe? Why, or why not?

2. Think of a cafe near you. What do people do there?

3. What do you usually do when you feel lonely?

Building Language

DL 02 CD1-02

Which word (1-6) best fits which explanation (a-f)?

1. uplifted [ ]
2. isolated [ ]
3. depressed [ ]
4. flowing [ ]
5. vulnerable [ ]
6. facilitate [ ]

a. miserable, without any joy
b. make it easier for something to be done or achieved
c. alone, with no friends or supporters
d. at clear risk of being attacked or criticised
e. much happier and more encouraged than before
f. moving along without interruption, like a river

Understanding Check 1

Read the quotes, then watch the news and match them to the right people.

a. Quite sociable, really. So, I do love to come down here.

b. … it makes me cry every time I talk about it.

c. You just need other people.

d. … encouraging others to take part and to bring out the best in other people.



( )



( )



( )



( )

Understanding Check 2

Which is the best answer?

1. Why do you think Anne Barlow started to come to the Chatty Cafe?

a. She had nothing else to do on Fridays.

b. She is a volunteer and enjoys chatting with the customers.

c. She likes to chat with the cats.

d. She was lonely after her husband passed away.

2. What do volunteers at the cafe do? Which of the following is not mentioned?

a. They bring out the best in other people.

b. They help the conversation if people are not sure what to talk about.

c. They facilitate games and activities.

d. They encourage others to take part.

3. When did the charity begin, and how many people has it helped since then?

a. It began in 2017, and since then has helped about 30,000 people.

b. It has helped more than 700 people since it began last year.

c. It started in 2016, and has helped a thousand people.

d. It has helped lots of people since it began after the COVID epidemic.

What do you remember?

4. Why did Alex Hoskyn start the Chatty Cafe?

5. Why does Judy Harnor regularly visit Just-Ice in Poynton?

6. What is Hoskyn's main goal for the people who visit the Chatty Cafe?

Background Information

孤独はイギリスの現代社会において深刻な問題となっています。晩婚化や結婚しない傾向が進み、独居世帯が増えて、新型コロナウイルスのパンデミック以降はリモートワークなどの働き方も広がりました。また、従来は地域社会や教会などによって育まれていた人と人との繋がりも弱まりつつあります。そうした中で孤独を感じる人が増えているのです。ある調査によると 2022 年にはイギリスの成人の 49.63% がある程度の孤独を感じており、中でも慢性的に孤独を感じている人は 7.1% に上ります。そのような状態で SNS のようなバーチャルな人間関係に向かうと、より孤立感が強まるという研究結果もあります。特に高齢者の孤独は深刻で、イングランドでは 200 万人を超える 75 歳以上の高齢者が一人暮らしです。さらには 100 万人以上の高齢者が誰とも会話を交わさずに 1 ヶ月以上過ぎることがあるといいます。

おしゃべりカフェは、アレックス・ホスキン（Alex Hoskyn）が産休中の 2016 年に思いつきました。赤ちゃんを連れて入ったカフェで、ホスキンはバラバラに座っている一人客を目にし、話しかけたい衝動に駆られました。現代のイギリス社会ではそのような習慣がないためその場では我慢しましたが、帰宅後に SNS で思いを発信したところ反響を呼び、カフェなどからの働きかけがあったことをきっかけに慈善団体としての活動が始まりました。パンデミック中はオンラインで活動を続け、2026 年にはイギリス全土で 700 以上の会場が登録され、600 人以上のボランティアを派遣して、孤独に悩む人々を支えています。外交的なアメリカ人と違い、知らない人に話しかけるのは苦手な人が多いイギリス人ですが、各地の会場に会話を促すボランティアを配置して円滑な会話を助けています。

そのようなおしゃべりカフェの会場の 1 つがチェシャー州のポイントンにあるジャスト・アイス・ポイントン（Just-Ice Poynton）です。そもそもジャスト・アイスとは、ガヴィン（Gavin Murray）とサリー（Sally Murray）のマレイ夫妻がダービシャー州のダービー（Derby）で経営しているアイスクリームカフェです。店名が示唆する通り社会正義（justice）の実現を目指しており、フェアトレードによる素材を使ったアイスクリームを販売するだけでなく、人身売買の被害者など、不当に搾取されていた人々を雇って自立を助けるといった活動も行っています。そんな夫妻に感銘を受けて、ポイントンの聖ジョージ教会（St George's Church, Poynton）の信徒たちが 2020 年に慈善団体を設立し、2021 年にカフェをオープンしました。2026 年には週に 2 回おしゃべりカフェを開催し、人々の交流の場を提供しています。現代の断絶しがちな社会にコミュニケーションと温もりを取り戻すため、全国のおしゃべりカフェでは世代を超えた交流が続いています。

参考：
https://thechattycafescheme.co.uk/2026/01/05/chatty-cafes-help-tackle-the-loneliness-epidemic/
https://www.bbc.com/news/articles/c1eqxd3y054o
https://www.bbc.com/news/articles/cn0kz1wpnq5o

Filling Gaps

CD1-03 ORIGINAL CD1-04 VOICED

Watch the news, then fill the gaps in the text.

Anne Barlow: I do like party games where you have things stuck on your head.

Woman: Yes. Yeah.

Barlow: And, er, I like …

Andy Gill: Anne Barlow chats to ([1]) at the Chatty Cafe table in the Just-Ice Cafe at Poynton in Cheshire. Anne lost her husband in 2023 and has been coming to the Friday sessions here for a couple of months. It's made a big ([2]) in her life.

Barlow: You just need other people. You just need social, much more social ([3]), I feel, than, er, than you can possibly have on your own with your cat. They're not, not good chatters, cats, no. And you go home feeling ([4]).

Gill: The Chatty Cafe idea was started by Alex Hoskyn, from Oldham, who felt ([5]) when she had her first child in 2016. She was in a cafe and realised people at different tables weren't talking to each other. Now, there are Chatty Cafe tables at more than 700 ([6]) across the UK.

Alex Hoskyn, founder, Chatty Cafe: I do want it to grow. I want it to keep going. Um, it is an ([7]). It's, you know, a national crisis and the more we can give people the opportunities for face-to-face ([8]), the better, really.

Judy Harnor: She was at the carol service.

Woman off-camera: Yes, she was at the carol …

Harnor: Yes.

Gill: Judy Harnor is another ([9]) at Just-Ice in Poynton.

Harnor: Well, it lifts you up, if, if you're feeling a little bit low, a little bit ([10]). I, I love to chat and talk to people. Quite sociable, really. So, I do love to come down here.



Gill: The Chatty Cafe tables aim to ([11]) loneliness all year round, not just at Christmas. Volunteers like Margaret keep the conversation ([12]) if ([13]) or new people

are not sure what to talk about.

Margaret Goode, volunteer, Chatty Cafe: I'm very ([14]) about older people and loneliness. And I'm, you know, I'm there myself a bit as well and I think I've always been a person that's been able to ([15]) something, get it going with the help of others, encouraging others to take part and to bring out the best in other people.

Gill: The charity ([16]) it's helped 30,000 people since it started in 2017. Now, it wants to ([17]) money to have tables in a thousand ([18]) for its 10th anniversary next year.

Hoskyn: I think for people to feel they can go out in the ([19]) and, and maybe people say hi to them, you know, and they start to get to know people they wouldn't have known before. So, yeah, it makes me cry every time I talk about it.



Gill: Andy Gill, BBC North West Tonight, Poynton.

Notes

ℓ 4 **Chatty Cafe**「おしゃべりカフェ」2017 年、見知らぬ人同士の会話を促すためにイギリスのオールダムで始められた取り組み　ℓ 5 **Just-Ice (Poynton)**「ジャスト・アイス（・ポイントン）」雇用と訓練を通じて人身売買や現代の奴隷制の被害者を支援している慈善団体。2021 年に同名のアイスクリームのカフェを開店した　ℓ 5 **Poynton**「ポイントン」イングランドのチェシャー州にある町。マンチェスターの南東に位置する　ℓ 5 **Cheshire**「チェシャー」イングランド北西部にある州　ℓ 12 **Oldham**「オールダム」イングランドのマンチェスター（Manchester）の北東に位置する町。産業革命時には綿紡績工場の町として発展した　ℓ 51 **BBC North West Tonight**「BBC ノース・ウエスト・トゥナイト」BBC によるイングランド北西部向けのニュース番組

コーヒーとイギリス人

Behind the Scenes

イギリスといえば紅茶のイメージがありますが、実は飲まれ始めた時期はコーヒーのほうが少しだけ先でした。イギリスにコーヒーが登場したのは17世紀で、1650年にオックスフォードに最初のコーヒーハウス（coffeehouse）が誕生し、以降各地に広まりました。コーヒーハウスは「ペニー・ユニバーシティ（penny university）」とも呼ばれる男性たちの社交場で、1ペニーの入場料でコーヒーを飲みつつ知識人や商人が議論し情報交換する重要な場所として機能しました。一方、店としてのカフェ（cafe）は飲料のコーヒーを意味するフランス語由来ですが、18世紀のパリからヨーロッパに普及し、飲み物や食事を楽しむ場として、より広い層の人々が利用する空間となりました。ちなみにイギリスで紅茶が飲まれ始めたのはコーヒーから10年ほど後の1660年代以降のことで、王妃キャサリン・オブ・ブラガンザ（Catherine of Braganza, 1638-1705）が愛飲したことで上流階級の人々の間で人気となりました。18世紀には一般家庭にも普及し、気軽に紅茶を楽しめるティールーム（tearoom）が登場します。19世紀には夕方にお茶を飲むアフタヌーンティー（afternoon tea）の習慣が定着し、紅茶は国民的飲料となりました。

MOVING ON

Making a Summary

DL 03 CD1-05

Fill the gaps to complete the summary.

After Alex Hoskyn had her first child in 2016, she felt (**i**). She then realised that people in cafes weren't talking to each other, so she started the first (**C**) Cafe, where people had opportunities for face-to-face interaction. Since then, about 30,000 people have been helped, in 700 (**v**), and she is hoping for 1,000 (**v**) soon. Anne Barlow has been coming to the cafe since she lost her husband, and needed more chat than she could have with her cats. She goes home feeling (**u**). Another customer, Judy Harnor, also said that when she feels (**d**), she loves to chat because it lifts her up. The Chatty Cafe tables aim to (**c**) loneliness all year round, and volunteers keep the conversation (**f**) when customers are feeling (**v**). They (**f**) things, and bring out the best in people.

Follow Up

Discuss, write or present.

1. Do you think that these Chatty Cafes are good ways to combat loneliness? Can you think of other ways to help? Would these cafes help you?

2. Would you volunteer in these Chatty Cafes? Do you think that you could help?

3. Are you surprised that Alex became lonely after becoming a mother? Why do people become lonely? Do you think it is as serious as the founder of the Chatty Cafe thinks?